

共翔

第17号



館想館語

図書館サーフィンを

新図書館は今年で10年を過ぎ、新しいサイクルを迎えました。ありがたいことです。

「十年一昔」と申しますが、しかし、その「十年」の一日一日は半端なものではなかったでしょう。図書館スタッフのみなさん、ご苦労様でした。

さて、それはそれとして、もう少し図書館のありようを考えなおしてみたいとも思います。

ネットサーフィンという言葉があるのは周知の通りですが、ここで「図書館サーフィン」なる言葉を提起したいと思います。

面妖な、とお思いでしょうか。

しかし、レポートを書くためのみ図書館を利用するのではもったいない。

図書館の中を、歩き回ること。書架の間をブラブラと散歩すること——もちろん静かにね。そうすると、「おや、こんな本があった」とか、意外外の出会いはあるかもしれません。それこそ背文字を眺めているだけでも、別の世界に誘われるでしょう。図書館の森を、そんなふうに活用してほしいと思います。そんな新しい出会いを期待します。

海のサーフィンだけではなく、また、ネットサーフィンだけではなく、書架の迷路をウロウロしていると、思いがけぬ素敵な「本」に出会うのではないか。書物という想像力の世界は無限です。どうか、そんな「図書館サーフィン」をしていただきたいと思います。

●..... 目次●

- | | |
|--------------|------------------|
| 01. 館想館語 | 12. 利用アンケートの結果報告 |
| 02. 巻頭エッセイ | 15. 図書館スタッフから |
| 04. エッセイコーナー | 16. OPEN LIBRARY |
| 10. 学生の声 | |





“仏像”を測るということ

人文科学部 表現文化学科教授 土井 通 弘

“仏像”とは仏の姿を表現したものであるから、絵画作品として表現されるものもあるが、ここでは彫刻作品としての“仏像”を指している。仏像は元来、聖性の存在、すなわち信仰の対象として造立ぞうりゅうされるものであるが、ある民族の聖性の表現としての美術史の研究対象でもある。

仏像を研究しようとする場合、詳細な観察に基づいて出来得る限りの客観的なデータを集めることが求められる。造形である以上、木造か金属造かなど、素材の知見はおおよその年代を知る手懸りになる。また、どのような姿をしているかといった形姿は、その仏が仏教思想のいかなる表現体かを知る上で重要である。

以上の観察に加えて、仏像の法量を計測することが行われる。これはいわば仏像の身体測定である。身長・髪際高（地付き～額の生え際まで）・頭頂～顎・面長・面幅・胸厚・腹厚など、細かい部位の寸法をメジャーやキャリパス（鋏形虫の角のように先が湾曲した道具）などを使って計測するのである。この目的は、第一に仏像のスケールを知ることである。写真などでは感じることの出来ない要素である。経典の

中には仏の身長について記載しているものがあり、それに依れば仏の身長は一丈六尺、約4 m80cm（坐像ならばその半分の2 m40cm）であるとしている。平安時代後期（院政期）には経典の記載どおりの寸法で仏像、特に阿弥陀如来像を造立することが貴族たちの間で流行した。この流行は仏教学の進展を基盤にして経典に忠実であろうとする生真面目さを示すものであるが、例えば、現代まで伝わる当時の作例である京都宇治の平等院阿弥陀堂の本尊を前にしたとき、その存在感には何人も圧倒されるであろう。発願者である藤原頼通は、極楽浄土への救済者である一丈六尺の阿弥陀如来像のスケールに仏の力を感じたに違いない。すなわち、仏の寸法はその力を表現しているといえそうである。因みに、この寸法を基準尺にして、6倍したのが、奈良・東大寺の大仏毘盧舎那仏（坐高約14m）である。大仏はただ大きいというだけではなく、基準尺があったということが重要である。

第二に、彫刻は三次元作品であるから、ボリューム感を数値で示すことである。すなわち、奥行き表現である。数値的に言えば、タテ：

ヨコ：高さの比率で表される。この比率が限りなく〔1〕、すなわち正立方体に近づけば近づくほど、見る側の私たちは重量感を感じ、その感覚は存在感に変わっていくのである。この比率に強い関心が払われたのは平安初期（9世紀）である。仏像は人間の体をモデルに身体表現を獲得していくのであるが、モデルである

人間の身体比率を超えて（時には無視して）、奥行きが表現された時代であった。

第三に、身体の実在性の数値化である。仏像の体は人間がモデルであると先述したが、なだらかな曲面で構成されている。そして、その曲面が身体の方節（胸・腹・脚など）と矛盾なく連続していく点に、私たちは真実の存在として“仏”を見るのである。連続性に違和感があれば、見る側は不安になる。言うまでもなく、ここに言う実在性と写実性とは違っている。今話題の興福寺蔵阿修羅像の腕は筋肉を感じさせない棒状で写実とは程遠い表現であるが、像全体を見たとき、違和感はなく、むしろ不安さを表現した面相と軌を一にしていることが知られる。研究ではこの実在性を如何に客観化するかが重要な課題である。

しかし、決められた部位を計測する従来の方法では不十分である。A点からB点への増減の変化の曲線が捉えられないからである。そこで、



特殊な撮影機器を使って三次元計測を行っているところ

先日実施した瀬戸内市の餘慶寺蔵木造薬師如来坐像（重文、平安前期、像高183.0cm）の調査で、三次元計測を行った。近年、考古学や建築学の分野で導入され始めている計測法である。三次元計測の原理はA・B・Cの三点でできる三角形を像の表面に隙間なく貼り付け、各三角形の歪みで面を構成するという方法である。実際には特殊な光線を照射して、その反射光をコンピュータで読み取り、処理計測するのである。本調査では総スキャン数185回、総点数は7,737,266点にのぼった。これらの点をコンピュータ処理を行うことで、様々な部位の法量を明示することが可能となるのである。従って、従来の定点測量では把握できなかった局面のカーブを数値化できることになった。このような数値を複数体の作例と比較することによって、カービングの特徴を明らかにできるようになり、彫刻の調査がより進化していくことが期待できる。



「文芸評論」 問答

人文科学部 表現文化学科講師 池田 雄一

おまえがやっている「文芸評論」という仕事について何か説明しろ、というのが編集部からのお題なのだが、自分のやっていることを人に説明するというのは、大きなリスクをとまなうものである。ひと言でいうと、自分の仕事を説明しているうちに、それがバカバカしくなってしまう、最悪の場合、やめてしまう可能性があるということである。そんなバカなど思うかもしれないが、およそ「説明」という行為は、そうした要素をふくんでいるものなのだ。とくに、見たことも話したこともない相手に、自分の仕事を説明するときは危険だ。

そこで、年下の友人である松波太郎君に助っ人をたのむことにした。松波君は、東京でのワークショップに参加していた若者で、なかなか面白い奴である。面白いだけでなく、今年の『文学界』という雑誌の主宰する新人賞を受賞している。将来の芥川賞作家としてひそかに期待されている若手作家である。彼の質問に答えるという形で、自然と文芸評論家という存在がどのようなものか、分かっていたかど期待する次第である。

松波 池田さんおひさしぶりです。岡山にいてもラーメン屋のバイトの勧誘はうけていますか？ さて、「文芸批評」にかんして、ぼくのほうから二、三質問させていただきます。

補足を入れると、東京では昼間などフラフラしていると、よほど金がなさそうに見えるのか、ラーメン屋などで「アルバイト」に誘われることが何度かあった。じじつ金もないので、そのつどやるかどうか真剣に悩んだすえに、手近な友人に相談することがあるのだ。彼の挨拶はそのことを言っているのだ。ちなみに、いまのところバイトの話はされていない。

Q1 ちまたでは、よく実態のわからない職業として、投資家、スピリチュアル・カウンセラー、文芸評論家の名まえがたびたびあがります。どういう職業なのか、将来文芸評論家をめざすチビッコがひとりでもふえるよう、わかりやすく、魅力的につたえてください。

え、無理ですよ（笑）。それはそうと近ごろは、小説と評論って、やってることはあまり変わらないと考えてます。ちがうのは、評論の場合は、論じる対象として、小説や映画や漫画などといった、自分以外のものが「足がかり」としてあるのに対して、小説の場合は自力でそういうものを創りださなくてはならない、という点でしょう。それ以外は、あまり変わらないと思いますが、チビッコのみなさん、どうでしょう？

Q2 池田さんは四月に東京から岡山にひっこ

したわけですが、文芸批評する上で、よかった点、わるかった点がありますか？

これまた答えづらい質問を……。

まず前提の確認をすると。自分は、これから「フリー」の文芸評論家としても活動をするつもりでいます。大学には所属しているけど、大学専属の評論家ということではないので、たぶん評論家としては「フリー」と言っていていいでしょう。フリーでやるというのが、どういう事かということ、選択の余地なしで「いちばん」を目指しつづける、ということになると思うんですよ。つねに攻め続けないと、あっという間に消えて無くなるのがフリーの面白いところであり、つらいところでもある。サメが泳ぎ続けないと窒息して死んじゃうのと似てるよね。これは作家も同じでしょう。

それで自分も批評家として生き残るためには、一番を目指しつづけなくてはならないんですよ。ということは、どういうことかということ「岡山を日本の中心にする！」くらいの気合いがないと、むしろ続かないということになるよね。それはそれで、ぞっとする話だけど。

それはそうと、こんなこと言うとまた嘘だと思われるかもしれないけど、岡山にはじめて来たときに「なんだか未来都市みたいだな」と思いましたね。はじめて東京に来たときにもそう思ったけど、それとはちがった意味で。東京は、ただひたすら大きくて、ゴチャっとしているでしょう。岡山市は、なんというか、いろいろなものが過不足なく位置していて、しかもそれが美的に完成されている、といった印象です。たぶんそう思ったのは、「後樂園」に行ったからです。あれはすごいですよ。まるで極楽みたいな場所が、何食わぬ顔をして、街の中心部にある。

そこで人々が当然のように花見をしている。あれは衝撃でしたね。それが批評にとってプラスになるのか、案外そうでないのかは、まだわかりませんが。いまは、小説などの話をする友人がいないので、ひたすら寂しいです。はやく地元の友達をつくらないと、兵糧攻めになってしまいますね。

Q3 たえばはじめて会うひとに、「好きな映画は？」「マンガは？」「音楽は？」とはきやすくきけますが、「好きな文学は？」または「小説は？」とはききづらい現在になっています。きいた時点ですでに相手の趣味を特定してしまう“せまさ”をかんじます。たんにほくだけがかんじているのかもしれないこの文学または小説の“せまさ”を、池田さんはどのようにかんがえていますか？

その場合の「文学」や「小説」のイメージって、芥川龍之介の「歯車」とかを想定してないですか？ たえば質問の相手として、東野圭吾あたりを読んでいる人を想定すると、あまり「せまさ」を感じないのでは。逆に中原昌也や舞城王太郎の小説を読んでいる人でも狭い感じにならないと思うけど。

それでも小説を読む、という行為は、映画や音楽とちがって非常にパーソナルな作業なので、そうなるのかもしれませんが、そこを何とかしていくのが評論でしょう。

そんなわけで、小説などの話をするのに風通しのいい場所をつくるのが、評論家の使命だと考えてますね。ぜひ「松波太郎」には、まわりの風通しが良くなるような作品を、これからも書き続けてもらいたいですね。

感染症と薬

薬学部薬学科 准教授

塩田 澄子

「**新**型インフルエンザA (H1N1)」が世界中で猛威を奮っています。高病原性鳥インフルエンザ (H5N1) 由来の新型インフルエンザに注意を払っていた中、ブタインフルエンザの出現に不意を突かれました。しかし、国立感染症研究所は新型インフルエンザに対して「そこまでやる？」というほど注意喚起をし、国が準備を進めてきた結果、日本では迅速な対応が着々と行われているように感じます。H5N1の鳥からヒトへの感染が確認されて以来、新型インフルエンザに関する多くの本が出版されていますが、学生が読むなら「インフルエンザ危機」(集英社新書、河岡義裕著)を勧めます。新型インフルエンザが取りざたされる直前の2005年の出版ですが、インフルエンザの歴史から、新型インフルエンザが出現する理由、さらに感染時の対策までわかりやすく書かれています。何より筆者はウイルス学研究の第一人者であり、その研究内容や、ワクワク・ドキドキの研究生活に触れることもできます。

日本において感染対策の概念が激変し、内容の充実の必要性が叫ばれたのは2003年春、アジアに端を発したSARS (重症急性呼吸器症候群)が瞬時に世界に拡がった時でした。時を同じくして、2003年4月1日に就実大学薬学部は産声をあげています。SARSパニックの渦中、「病原微生物学講座」という感染症を強く意識したこの講座の担当を拝命した時、就実大学における

目標ができました。一期生の入学式後の教員挨拶では、SARSを引き合いに出し、「感染症は進化し続けています。従来の感染症から、SARSのように突如出現し、世界を震撼させる感染症にまで対応できる薬剤師を輩出したい」との大きな抱負を述べていました。

私が大学に在籍していた頃、感染症は抗生物質の誕生により治療可能な疾患と考えられ、研究の対象としてはもはやあまり興味をそそられるものではありませんでした。医学部や薬学部の多くの微生物学の研究者は免疫学に鞍替えし、純粹に「感染症と薬」を研究テーマとしている研究者の数は減っていったと聞いています。私も大学・大学院では「微生物薬品化学」の研究室に属しながら、感染症とは全く関係がない、大腸菌を用いた基礎的な生化学の研究を行っていました。修士課程を終え、家庭に入り、15年後、再び研究生として大学に帰ってきた時には、微生物の世界は様変わりしていました。抗生物質では治せない感染症が出現しはじめ、この原因となる薬剤耐性菌の存在が臨床現場で問題になっていました。薬剤耐性菌の研究者は増え、私もその一端に加わりました。同時に看護学校で「微生物学」を教えることになりましたが、臨床現場で患者さんと間近で接する看護学生には、一般的な感染症の知識はもとより、感染症の予防 (患者さんと自分を感染症から守り、自分が感染経路にならない) に関する知識

が重要です。教えるための勉強をする中で、感染症にまつわる話はとても興味深く、私自身が感染症の面白さに取りつかれてしまいました。当時インパクトを受けたのは「院内感染」(河出書房新社・富家恵海子著)です。まだ日本に院内感染対策が整備されていなかった頃、病院内でMRSA(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌:院内感染の原因菌として問題となっている多剤耐性菌)に感染した夫を亡くしたジャーナリストの持っていきようのない憤りをぶつけたドキュメンタリーでした。

薬剤耐性菌についても書かれた本も枚挙に暇はありません。古典といえば「細菌の逆襲〜ヒトと細菌の生存競争」(中央公論新社、吉川昌之介著)ですが、一般の人には難解です。吉川先生にバトンを渡された形でわかりやすく耐性菌について書いたという橋本一先生(群馬大学医学部名誉教授)の「薬はなぜ効かなくなるか〜病原菌は進化する〜」(中央公論新社)は面白いです。抗菌薬はどのようにして世に出てきて、それに対応して病原菌はどのように進化したのか。38億年を生きてきた細菌の巧みな処世術に感心するばかりです。橋本先生は感染症に関わる数々の学会の重鎮であり、80歳近くの今も、最新の文献を網羅的に読み、その知識をシンポジウムなどで教育講演されます。私が薬学部の教員であると知ると、有効に使ってくださいと講演のスライドと読み原稿を送ってくださいました。講義のガイダンスに使っているスライドの一部には提供橋本一先生と書かれています。

そのガイダンスで学生に最も受けるのが、ノーベル賞に関する話。1901年、第一回ノーベル

生理学・医学賞の受賞者はコッホの弟子、フォン・ベーリングでした。しかしその兄弟子であり、日本の細菌の祖である北里柴三郎こそ受賞にふさわしかったということです。なぜ北里ではなかったのか? その答えは「北里柴三郎〜雷といわれた男」(中央文庫、山崎光夫著)にあります。この本は薬学部工藤准教授のホームページ(学内専用)の「最近読んだ本04」でも紹介されています。梅毒等の研究で3度もノーベル賞候補者となった細菌学者、野口英世については多くの伝記がありますが、その本当の姿は? ベストセラー「生物と無生物のあいだ」(講談社現代新書、福岡伸一著)で垣間見ることができます。

読むばかりではなく、「感染症と薬」について書く機会も与えていただきました(ベーシック薬学教科書シリーズ「微生物学感染症学」、化学同人、土屋友房編)。これまでの知識を整理し、新たな知識を積み上げる作業は多くの時間を要しましたが、自分なりの集大成ができました。薬学生に学んでほしいことすべてを盛り込んだ初校は長編となり、編者からせめて3分の2に減らすよういわれ、泣く泣く削りました。ほかにも2冊の教科書に関わりましたが、教科書は書いて終わりではありません。内容を常に見直し改訂するので、突然送られてくる原稿と格闘する日々が続いています。

「感染症と薬」には思い入れがあり、語り始めたら止まりません。ペニシリンの誕生からタミフルまでネタは尽きませんが、「共翔」の編者からも字数オーバーといわれそうですので、このあたりでやめておきたいと思います。

想像力もて、世界を見れば

人文科学部総合歴史学科 准教授 井上 あえか

わたしが学部学生だった頃、文化人類学・言語学の西江雅之氏が週一回非常勤でこられ講義をもっておられた。彼はヨーロッパ、アジアのいくつもの言語を身につけた語学の達人でもあるが、とりわけ日本最初のスワヒリ語の文法書を著した人で、アフリカの諸言語研究の第一人者としても知られる。著名な文化人類学者ということは知りつつ、そのありがたみを十分に認識しないまま、語り口の面白さに引かれて受講していた。

今では講義の内容もほとんど覚えていないが、ただ一つ、とても印象深かったことがある。それは、世界の文字言語の書きすすみ方には、およそ思いつく限りのバリエーションがある、ということだった。左から右へ、右から左へ、あるいは上から下へがあれば、下から上へもある。こんなのは当たり前で、右下から左横へ書き進み、上へ上へと行を重ねていく書き方、さらには渦巻きの中心から発して円を描きながら外へ外へと書き進む言語もあるというのだった。

当時右から左へ書く言語を専攻しはじめたばかりで、日本ではちょっとめずらしいとおもっていたわたしは、そんなものめずらしくも何ともない、と言われたような気がして恥ずかしか

った（若い時は自意識過剰になるものだ）。

話は変わってこの3月、十数年間にわたって日本に不法滞在していたフィリピン人の夫妻とその子供が在留特別許可を求める裁判の末、子供だけに在留が認められ、両親は強制退去という決定が下った。入管の決定の趣旨は、不法入国、不法滞在を続けた両親については責任を取らせ、子供については日本で生まれ育ち日本語しかできないという状況に鑑みて在留を認める、ということで、両親の再来日にも柔軟に対応することをふくめ、恩情を示したというものだった。

この件について解釈や意見は多様でありうる。ネット上ではこの一家に対するたいへん過酷な書き込みもあふれたらしい。しかし確かなことはこんな例は今後もおこるに違いないということだ。現に特別在留許可を求める子供の数は全国に500人は存在するという弁護士の推計が報じられていた（『毎日新聞』4月13日付）。個別に対応していくだけでことたりることなのだろうか。これは日本の入国管理政策の理念の問題なのであろうが、同時に日本社会の対外意識が問われている局面でもある。今日の日本は外交政策が選挙の争点になりにくい社会であ

る。米中枢同時多発テロのあと、対米協力をめぐる政府の姿勢は多くの国々で政権の存否を左右する政策課題となった。たとえばスペインで、対米協力を打ち出した大統領が選挙に敗れて政権交代に至ったような事態は、今の日本では考えにくい。

それでも外国人という異質な存在をめぐって、われわれは時にさまざまな価値観を試される。そして見知らぬ外国（人）との関係をどうするかということを考えるためには、相手にたいする、あるいはわれわれ自身の未来にたいする想像力が不可欠である。件のフィリピン人夫妻を、他人名義のパスポートで入国した入管法違反の犯罪者である、と即座に攻撃するネット上の人々は、彼らやさらに水面下に隠れている同様の境遇の滞留外国人について十分な想像力をめぐらせただろうか。

世界はあまりにも広く多様性にみちている。それこそが世界の生命と力の源だ。文字の書き方も、家族の境遇も、およそ想像できる限りの、あるいは時に想像を超えるようなバリエーションがあるのが現実だ。是非や合理・不合理を問う以前にすでにそこに存在する。それを受け止め認識する過程で、われわれには想像力が要求される。

ひとりの人間が生涯に経験できることはごく限られている。はじめに紹介した渦巻き状に書くという言葉、わたしはいまもって目の当たりにしたことはないのだが、この経験は、自分

の母語とそれまでに見知っていた言語を相対化してくれた。

百聞は一見に如かず、ということももちろんあるが、想像力のない人はたとえ現地へ行って何を見ても、自分の偏見を確認するだけの旅で終わる。大切なことは、外国へ出かけていくことではない。生涯故郷を離れない人生であってまったくかまわないから、ただ世界への想像力をもつことを厭うてはいけない。そしてそれは日本国内と欧米にのみ向けられるのではなく、アジアへ、アフリカへ、ラテンアメリカへ……。想像力をはたらかせるということは、とりもなおさず自分を相対化するということである。自分の周囲を世界と考えていた子供時代からの脱却にほかならない。人生の豊かさは、どれだけ想像力をはたかせられるか、にかかっている。

図書館は想像力を鍛える絶好の場である。レポート作成のためにだけ便宜的に利用するのは、蔵書が泣くというものだ。目的を定めずに書架の間を歩き、本の背表紙をのぞいてみよう。誰かが読んだあとを感じるのもまた楽しい。図書館での経験は、ネットで知識を獲得するのとは違う質をもっている。学生諸兄弟には、未知との出会いを予感する時の胸締めつけられる体験を是非してほしい。これから何事かを成そうとする若い人々にとって、図書館の一隅におけるそんなひそやかな経験が人生を変えることだってあるのだ。

学生の声 ～私と図書館～

人文科学部 表現文化学科 4年

妹 尾 樹代子

大学の図書館といえば“専門書が所狭しと並んでおり、調べ物をするだけの場所”だと想像していましたが、本学の図書館はちょっと違いました。調べ物をするのに最適な場所なのは確かだけれど、それだけではなくて、カラフルな絵本や雑誌などが並ぶ、空き時間に気軽に通える場所でもあったのです。書架に並ぶピアノの楽譜のなかからお気に入りの曲を選んだり、小学生の頃に読んだ本や教科書に載っていた本を探したりするのも、私流の楽しみ方です。『ずーっとずっとだいすきだよ』(Wilhelm, Hans)という絵本を見つけたときは、驚きと懐かしさで興奮しました。小学校1年生の国語の教科書に載っていて、読書が好きになったきっかけとなった話だったからです。こうした本との出会いや再会を繰り返して、いつの間にか図書館は私の日常生活の場となっていました。

私は古典文学(中世)のゼミナールに入り、卒業研究で「世阿弥 能楽論の研究」に取り組んでいます。3年生のとき関連論文を収集するため、はじめてCinii(Nii論文情報ナビゲータ)やNACSISWebcatなどのWeb版の書誌情報データベースに触れました。本学にない論文は取り寄せてもらわなければならないので、数が多いと大変だなあ…などと思いながら各サイトにアクセスしたところ、私の求める大学紀要・学術雑誌の大半が本学の図書館に所蔵されていることがわかりました。調べ物をする場所として

も、本学の図書館が高い水準にあることを再認識しました。入手した論文を整理し、読む場所もやはり図書館ですが、とくに難解な論文に立ち向かうときは集中を持続しやすい閲覧個室を利用します。

私は教員志望です。そのため教職課程の勉強に加えて、4年生からは司書教諭資格の勉強も始めました。将来、教職に就いたとき国語の授業を担当するだけでなく、生徒が図書館に親しみ、そこでいろいろな本と出会えるよう指導したいと思ったからです。それ以降私は本学の図書館を学生として利用する一方で、司書教諭としての観点からも観るようになりました。大学図書館は“学校図書館”に区分されていませんが、本学の図書館は実質的に“学校図書館”としての機能も備えており、そのよき見本といえます。学生の要望に適切に応じ、また困った時に親切に相談にのってくださる司書の方を見ていると、私もこんな風に生徒と触れ合えたらいいなあと思います。

現在私は主に、司書教諭資格の勉強、教育実習の教材研究、教員採用試験の準備のために図書館を利用しています。本学の図書館はその時々私たちの興味や目的に応じて、様々な顔で私たちを迎え入れてくれます。あと1年、ここに私のどんな日常生活がかくれているのか、まだまだ楽しみと期待は尽きません。

私は授業の合間や放課後など、空いた時間があるとよく図書館を利用します。利用するときは授業課題の調べ物をしたり、息抜きに本を読んだりしています。図書館は落ち着いた雰囲気、集中して調べ物や勉強をしたいときや、ゆっくり読書をするのに最適な場所です。

就実大学の図書館には約28万冊もの資料が揃えられていて、調べ物をするときにはずいぶん役立ちます。授業に関わるような資料は大抵揃っていますし、必要な資料が大学になかった場合は取り寄せることもできます。

また、色々なジャンルの本があり、資料を探していると新たに興味が湧くこともしばしばです。最近では、『食が子どもたちを救う』という本を見て食に興味が出てきました。今まで私は、食についての知識はあまり持っていませんでした。しかし本を読んだから、近年の食生活の変化や、バランスの良い食事などについてさらに調べてみたくなりました。このように、新しいことに目を向けられるのも図書館での楽しみのひとつです。

さらに、調べ物や勉強以外で図書館を利用するのも私にとって大切な時間です。少し気分転換したいときには、館内を見て回ったりします。本棚を見ていると、面白そうな本や新しく入っ

た本などを発見できて見ているだけでも楽しくなります。閲覧席は沢山あるので、好きな本を見つけてゆっくりと読書することもできます。また、メディアルームを利用すれば、ビデオやDVDを鑑賞することができます。時間に余裕があるときや、少し息抜きをしたいときに図書館を活用してみるのもいいのではないのでしょうか。

図書館の利用の仕方は人によって様々です。私のように調べ物をしたり、息抜きに読書をしたりする他にも色々な利用方法があると思います。時間があるときには図書館を訪れて、自分だけの図書館の楽しみ方を探してみてください。



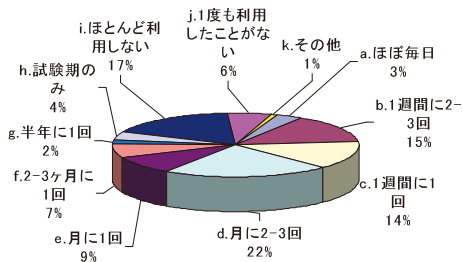
図書館利用アンケートの結果報告

昨年の平成20年7月7日(月)から7月18日(金)までの間、本学の大学生・短大生・大学院生の学生のみなさんを対象に図書館利用アンケート(18項目)を実施したところ、1,582名の多くの方からの回答をいただきました。ご協力をありがとうございました。アンケート結果をご報告いたします。

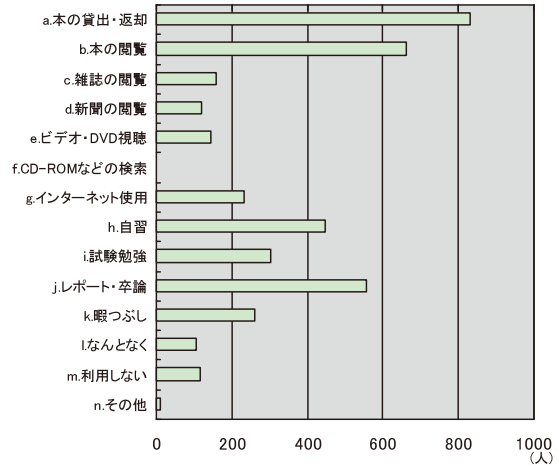
(1) あなたのことを教えてください。

人文科学部	774人	計1,582人
薬学部	362人	
短期大学	442人	
大学院	4人	

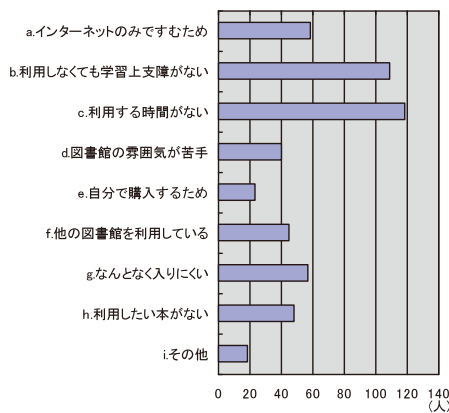
(2) 図書館利用はどのくらいの頻度ですか。



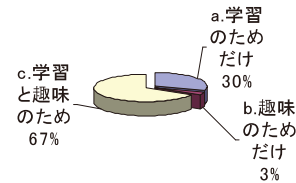
(3) 図書館利用の目的を教えてください。(複数回答可)



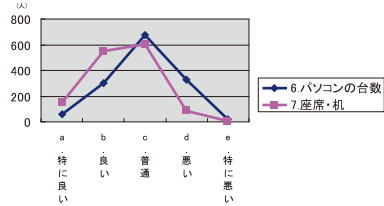
(4) 質問2で「ほとんど利用しない」「1度も利用したことがない」と回答された方にお尋ねします。図書館を利用しない理由は？(複数回答可) *このあと(7)に進んでください。



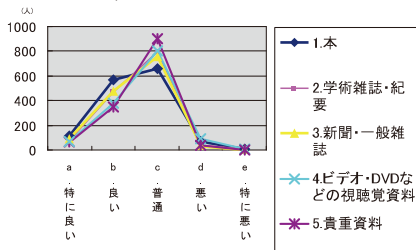
(5) 質問2で「ほぼ毎日」「1週間に2-3回」と回答された方にお尋ねします。図書館利用の目的は？



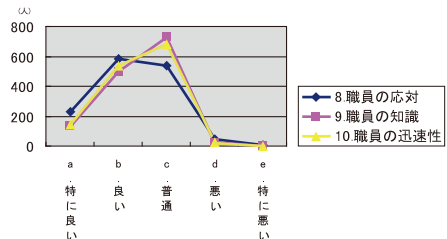
(6) 図書館利用の満足度を教えてください。(パソコンなど)



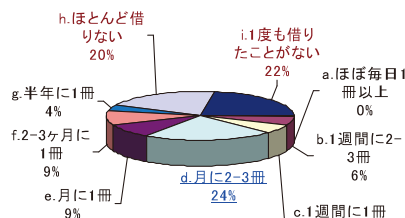
(6) 図書館利用の満足度を教えてください。(書籍・雑誌・資料などについて)



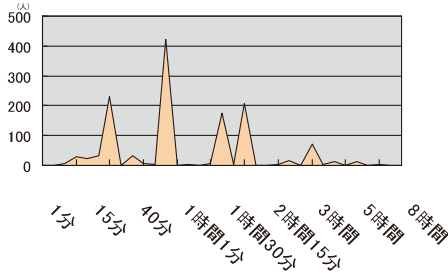
(6) 図書館利用の満足度を教えてください。(職員について)



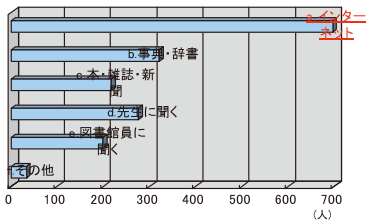
(7) どのくらい資料を借りますか。



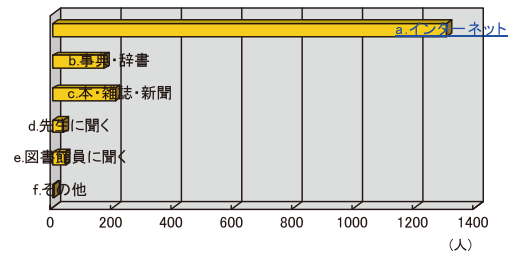
(8) 普段の図書館利用の時間を教えてください。
1回につき



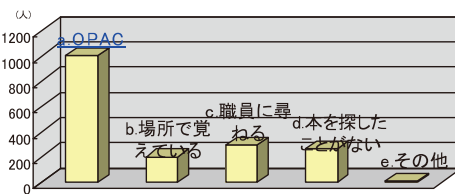
(10) 調べている時にわからないことがあったらどうしますか。



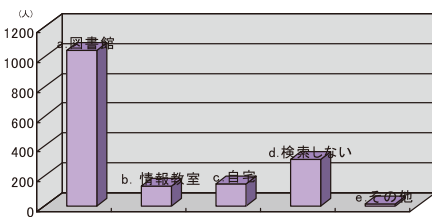
(9) 何か調べたい事があつた時まずはどんな方法で調べますか。



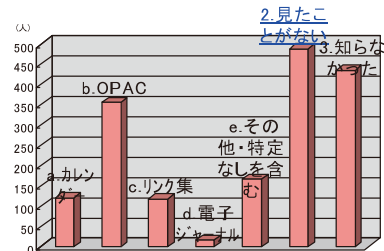
(11) 就実の図書館には28万冊の資料がありますがどのように本を探しますか。(複数回答可)



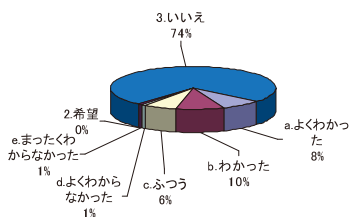
(12) OPACやWebcatの検索場所はどちらですか。(複数回答可)



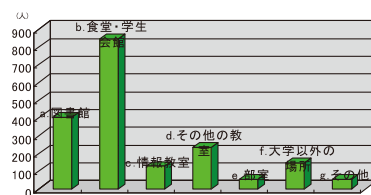
(13) 図書館のHPを見たことがありますか。



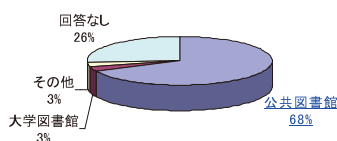
(14) 4月の利用案内は受講されましたか。「はい」の方は満足度と何か要望があれば教えてください。



(15) 自習などの学習や空き時間はおもにどちらで過ごしていますか。



(16) 就実の図書館以外で利用している図書館を教えてください。(複数回答可)



(17) (16) 図書館では本の貸出を行っていますか。

はい	907人
いいえ	233人

(18) 何かご意見がありましたらご記入をお願いします。
(*たくさんの記入をいただきましたが一部のみで割愛させていただきます)

DVD、一般的な雑誌、最近の小説、三国志、絵本、音楽、演劇の脚本などの本を増やしてほしい。3階が少し暑い。パソコンが少ない。貸出期間を長くしてほしい。遅れて返却すると2週間の貸出停止になるのが長すぎる。騒ぐ学生にもっと注意してほしい。OPAC・Webcatがよく分からない。快適に過ごしている。自習して良い場所なのに自習している人がいないのでやる気が低すぎると思う。調べ物以外の暇な時に寄ろうとは思わないので学生が本屋で本を選んだりの改善が必要だと思う。

まだまだあります！ みんなの図書館利用法！



書庫の電動書架

スイッチ1つで過去の雑誌が
たくさん見られます。

自動貸出機は使ってみると、簡単、
便利です。



1か月前の新聞も読めます。



ゲート近く

新着コーナーのチェ
ックは欠かせません。

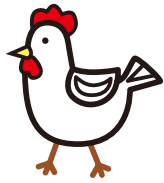


文庫本もチェック!!

静かに勉強でき
ます。



図書館スタッフから



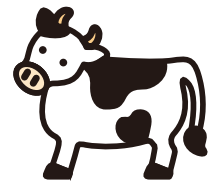
図書の発注、受入、支払の担当です。学生さんが希望する図書を積極的に購入したいと考えていますので、欲しい本があったら、カウンターに申し出てください。多数のリクエストをお待ちしております。

図書の目録情報作成を担当しています。国立情報学研究所に登録し、作成した情報が就実大学図書館のOPACに反映されます。またそれぞれの分野に分類するために請求記号を付けます。ぜひ、いろいろな分野の本を手にとってみてください。



月刊・週刊雑誌のコーナーを担当しています。ファッション誌をはじめ、月刊の教職課程や公務員試験対策の情報誌もあります。新着は館内閲覧ですが、バックナンバーになれば貸出できますよ！ 勉強の息抜きにどうぞ☆

私は図書館のカウンター担当です。ゲートの近くには、新着図書コーナーがあるので、図書館に来たときはぜひご覧ください。あなたの気になる本があるかもしれないから、要チェックですよ！ リクエストも出来るので、ほしい本があれば相談してね♪



レファレンスカウンターに座っています。探している本が見つからないとき、探し方がわからないとき、参考文献の探し方、コピー機の紙づまり、エアコンの調節などなど……何でも受けたまわります。どうぞお気軽に！

本学にない本や論文を他大学から取り寄せています。探している資料がない時は、気軽にカウンターに言ってください。でも、他大学に依頼すると2週間ほどかかります。お早めに！ ※県内図書館にあればセルフ複写の方が早いし安いですよ。



データベースを担当しています。『聞蔵』や『CiNii』など図書館HPの【データベース・リンク集】から検索することが出来ます。(利用されています?!) 卒論やレポート作成、研究をもっとサポート出来たらと思っているのでお気軽にお尋ねください。

本の検索や貸出・返却が機械でできるのは、図書館システムのおかげだということ皆さん知ってました？ もっと便利になるようシステム屋さん和相談したり、データ作成をしています。ちょっとシステムティックな図書館を探検してみませんか？



OPEN LIBRARY

高校生のみなさん、 就実大学の図書館で 勉強しませんか？



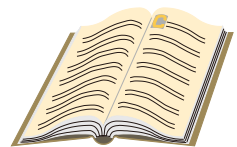
就実大学図書館では、Open Libraryを行っています。

高校生も、制服着用で生徒手帳・学生証をお持ちいただければ、就実の図書館を自習室として利用できます。



就実大学図書館には、約28万冊の本があり、約400席の閲覧室があります。

たくさんの本と、静かで心地よい空間のある就実大学図書館を、みなさんの勉強にぜひお役立てください。



※入館には身分証明書（生徒手帳）が必要です。

※制服着用でお越しください。

開館時間

9：00～20：00（土曜日は17：00）

日曜日、月末整理日は休館です。

2、3、8、9月の開館時間は変更になります。

ホームページをご覧ください。

共翔 第17号

平成21年6月20日発行

編集・発行
就実大学・就実短期大学 図書館

〒703-8258 岡山市中区西川原1-5-22 TEL(086)271-8134(代) FAX(086)271-8275
ホームページ <http://www.shujitsu.ac.jp>

※館報の題字は押谷善一郎学長の書によるものです。